

**[グリーン・イノベーション・農林水産業分野]
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果**

令和6年度

千年の草原の継承と創造的活用総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

3.8

i)取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	①草原管理面積 ②野焼き再開牧野数	49%	3
2	牛馬の放牧頭数	-	-
3	①観光入り込み総数 ②阿蘇地域の宿泊客数	-	-
4	あか牛肉料理認定店数	92%	4
5	草原体験利用者数	100%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値

$$(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 4$$

4.0

※1)1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。

(例)評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2)数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii)取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.6

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

2.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

-

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.3

III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.7

・牧野の本来の利用主体である畜産農家の減少に対して何らかの根本的な対策を講じないといけない段階に来ているように思われる。牧野利用を後押しするような農業環境政策(手厚い環境直接支払いの実施など)を国に求めていく必要があるかもしれない。入り込み客数は回復しており、あか牛肉料理の知名度も上がっている。阿蘇カルデラツーリズムへの欧洲からの利用者が増えているのは阿蘇の草原の価値が世界的に認められていることを示すものだと考える。アカデミアとの連携を今以上に強化してコンテンツとツアーガイドの更なる充実を図り、世界農業遺産としての阿蘇の魅力を内外に発信していただければと思う。

・観光関連の成果が上がっていることは評価できる。

野焼き再開牧野は、目標が毎年1組合であることから、年度ごとの進捗率の増減は十分に想定できるが、実際0組合であったことから、要因の分析と対策をしっかりと行う必要がある。

牛馬の放牧頭数については、要因の分析が甘く、対策が十分には練られていない。実施内容が不適切とは思わないが、改善の見込みが立っていないのではないか。

・そもそも、草原管理面積量などKPIの項目設定と、特区としての目的の相関関係や相互関係が妥当なのか。長期視点での計画であるため、時代によって変化することにいかに対応するのかが重要と思われる。企業研修など関係人口を増やすのであれば、企業版ふるさと納税など金融支援も作れると思われる。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.7

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.8+2.7+3.7 \times 2)/4=3.5$

3.5

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5~1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。